

古事類苑

遊戯部十一

茶湯具下

茶筴

〔下學集下財〕茶筴セシ

〔運歩色葉集地〕茶筴セシ

〔書言字考節用集七器財〕茶筴セシ又作セシ

〔倭訓栞前編十五〕ちや略中 茶筴の字、大觀茶論にみえたり、茶はもと末茶にて、點茶に茶筴を用

たり、今も末茶の時は然り、元の時よりは葉茶を専らにす、此方にては始には煎茶にも茶筴を用ゐたりとぞ、今は然らず、

〔茶具備討集〕茶筴

奈良茶筴 蟠枝沫切尾張井加賀、昔用今廢

〔和漢茶誌二〕筴副帥 十二先生之一俗云茶筴、或作茶

茶具圖贊曰、首陽餓夫毅諫於兵沸之時、方今鼎揚湯、能探其沸者幾希、子之清節獨以身試、非臨難不

顧者、疇見爾茶譜曰、歸潔是也、註曰、筴、箬也、按其軸書畫雕鏤飾之、

本國以白竹或紫竹一節造之、紺絲綴之、先時用寶萊之製、今高山造之寶萊高山皆邑名

〔千家茶事不白齋聞書〕茶筴之事

一荒穂、中荒穂、數穂、三色也、其內常體は中荒穂を用、數穂は眞成時用、荒穂は信樂、伊羅保、杯さはが